# インドネシア：ワヒド国民統一内閣の経済関連閣僚

〔人物データ・ファイル〕

※役職名のローマ字表記で括弧内のものはインドネシア語

**■経済・財政・産業担当調整相** Coordinating Minister for Economy, Finance and Industry (Menko Ekuin)

**クウィック・キアンギー（郭建义）**

Kwik Kian Gie（または Guo Jianyi), Drs

著名な華人経済学者でコラムニスト。華人の入閣は、スハルト政権最後の第７次内閣（98年３月発足）におけるボブ・ハサン商工相があるだけで、調整相としては初めて。インドネシア政治史上、画期的な人事といえる。入閣に先立つ10月３日には国権の最高機関・国民協議会（MPR）の副議長にも選出されている。「誠実で中庸を得た経済学者」とワヒド大統領の評価も高い。

「中庸」である所以は「経済民主主義」とも言える同氏の経済理論にある。「倫理的・法的に正当な手段ならば」個人は無制限の資産を所有できるとする市場中心経済を重視しながらも、①特定の個人・企業による独占体制の解体、②中小企業の支援・育成、③労働関連法規の改正など、「自由」よりも「公正」な経済を強調する指向があるからだ。総選挙の運動期間中に通貨ルピアの固定相場制移行を主張したことがある（現在は同政策に言及していない）が、同氏の経済理論の根底には、このように華人とは思えぬほどの民族主義や貧困階層の救済という思想がある。従って、同氏が華人であるが故に、昨年来の政治混乱で海外逃避している華人資本の還流が予想されるとする一部解説は、必ずしも的を得ているとはいえない。

調整相としてワヒド内閣の経済関係チームの文字通りの「コーディネーター」。しかし、このチームはワヒド大統領の「政治的妥協の産物」（地元アナリスト）ともいえ、同氏とラクサマナ投資担当国務相は闘争民主党（PDI－P）、バンバン蔵相は国民信託党（PAN）、ユスフ商工相はゴルカル党の各々幹部だ。これら経済閣僚がお互いに党の利害や経済理論の違いを超えて、最優先事項である国際通貨基金（IMF）との関係改善を含む同国の経済再建策をどう遂行していくのか。また、これまで開発経済体制を支えた経済官僚をどう掌握していくかなど前途は多難。

PDI－P ではメガワティ党首（副大統領）を補佐する９人の副党首の一人で、同党の最も重要なブレーン。オランダに留学して帰国後、エレクトロニクス関連企業の経営者として活動していたが、80年代に事業を売却し、地元紙のコラムニストに転じた。スハルト政権下で旧・民主党（PDI）に参加して後、90年代の初めには同党のシンクタンクを主宰。スハルト政権の下での「政商」的な財閥は商品価格をつり上げ、消費者から暴利を貪ることが目的だったとして特に厳しく批判してきた。市場経済が生み出す経済的格差の是正に情熱を注ぎたいとの同氏の経済思想の根幹は、この頃からほぼ一貫している。儒教倫理の信奉者でもある。

**▼データ**

【現職】経済・財政・産業担当調整大臣

【政党】闘争民主党（PDI－P）副党首（研究・開発担当）

【年齢】64歳（1935年１月11日生まれ）

【生地】中ジャワ州ジュワナ

【人種】華人

【宗教】カトリック

【学歴】インドネシア大学経済学部在学（途中でオランダに留学）

1963：（オランダ・ロッテルダム）Nederlandsche Economische Hoogeschool（現エラスムス大学経済学部）卒

【経歴】大学卒業後オランダ・ハーグのインドネシア大使館（情報文化担当官補佐）、アムステルダムの NV Handelsonderneming IPILP（ディレクター）等に勤務

1970：（帰国後）ビジネスマンとして広範な分野で活動（25年間）

トゥリサクティ大学財団（ジャカルタ）理事

1983：プラセティヤ・ムルヤ経営研究所所長（創設理事）（－88）

1987：インドネシア・ビジネス研究所（IBII）所長（創設者）

インドネシア民主党（PDI）に参加

総選挙に出馬するが落選

国民協議会（MPR）議員（PDI 代表）（－92）

MPR 運営委員会委員

1992：総選挙での立候補を却下される（登録の遅滞を理由に）

PDI 研究開発委員会議長

1993：IBII を経済学院（IBBI）に再編

1996：PDI の分裂（スルヤディ派 VS メガワティ派）で後者を支持

1998：［10月10日］PDI メガワティ派党大会で執行部入り（副党首）

1999：［２月14日］PDI メガワティ派が新党・闘争民主党（PDI－P）として発足するとともに副党首

［10月３日］国民協議会（MPR）副議長に選出

［10月29日］経済・財政・産業担当調整相

【家族】イーデス・ヨハンナ（Edith Johanna de Wit）夫人（オランダ留学時に結婚）との間に３子

【横顔】

・７人兄弟の５番目。父の The Kwie Kie 氏は農産物の取引を営んでいた。

・ハビビ大統領が昨年５月に前政権の組閣を行った際、同氏を要請したことがある。しかし、同氏はこの時は「メガワティ女史を応援したい」との理由で断っている。

・インドネシア語紙「コンパス」をはじめとする地元日刊紙の経済コラムニストとして有名。著書に「分析：インドネシアの政治と経済」、「財閥への夢」、共編書に「インドネシアのコングロマリット」（いずれもインドネシア語）がある。

---

**■外相** Minister of Foreign Affairs (Menteri Luar Neguri)

**アルウィ・シハブ**

Alwi Abdurrahman Shihab, Dr

ワヒド大統領が創設した国民覚醒党（PKB、国会第４党）の副党首。穏健派のイスラム知識人であり、「イスラム学の王子」（ヌルホリス・マジド教授）との異名もある。一方で比較宗教学に造詣が深い点でワヒド大統領に似ている。今年６月の総選挙で国民覚醒党（PKB）から出馬して国会議員に初当選。エジプトでイスラム哲学の博士号を取得したあと、米ハーバード大学客員教授（イスラム研究）を務めるなど滞米歴が長い。

総選挙後、各政党が合従連衡に動く中で、同国最大のイスラム団体、ナフダトゥール・ウラマ（NU：PKB の支持母体）のワヒド議長（現大統領）と、第二の団体ムハマディアのアミン・ライス前議長（現 MPR 議長）の仲介に尽力した。10月20日の大統領選挙直前、アミン氏が率いるイスラム系諸政党の「中軸陣営」が正式にワヒド氏を大統領候補として擁立することを決めたことを受け、ワヒド大統領誕生に向け PKB 議員票をとりまとめた。ワヒド大統領の側近中の側近で、入閣は当然視されていた。外務省の役割については、インドネシア産品の輸出促進などの「通産業務」に力を入れることを表明している。

**▼データ**

【現職】外務大臣

【政党】国民覚醒党（PKB）：副党首

【年齢】53歳（1946年８月19日生まれ）

【生地】南スラウェシ州ラッパン

【学歴】（東ジャワ州・マラン）ダルン・ナシイン寄宿学校卒

1966：（エジプト・カイロ）アルアザル大学卒

1968：同大学で修士号（イスラム神学）取得

1990：（カイロ）アンシャムス大学で博士号（イスラム哲学）取得

1995：米テンプル大学で博士号（比較宗教学）取得

【経歴】

1970：渡米。ニューヨークでバス・ターミナルのレストランでウエーターとして働き学資を稼ぐ。

（帰国後、15年間実業家として活動）

自動車や絨毯の輸入業に従事

（西ジャワ州）チュガンジュールのガラス工場（㈱プリヤンガン・ラヤ）を購入（後に倒産）

㈱シスウォノ・ユドフソド氏（後の移住相）の誘いで、サウジアラビアへ。メインテナンス業で成功

1984：（ウジュンパンダン）アラウディン国立イスラム教研究所で学ぶ（－85）

1990：（カイロ）アンシャムス大学で博士号を取得

のち、米イリノイ大学客員講師

1993：米テンプル大学宗教学部講師（－95）

1995：米ハーバード大学大学院研究員

1996：米ハートフォード神学校講師

1998：ハーバード大学神学部客員教授

［７月］PKB 結成に伴い副党首

1999：国会議員

［10月29日］外相

【家族】アシュラフ・シャハブ(Ashraf Shahab)夫人と３子は米国ワシントンD.C.に在住
【横顔】
・生家はアラブ系で12人兄弟の６番目。父親のアブゥルラーマン・シハブ氏(1905－86)は商業を営む一方で、コーラン解釈学の教授でもあった。ウジュンパンダンのインドネシア・ムスリミン大学(UMI)の創立者の一人にもなっている。兄のクライシュ(Prof Dr M. Quraish Shihab)もコーラン解釈学の専門家で、短命に終わったスハルト第７次政権(1998年３月－５月)で宗教相に任命されている。別の兄ウマル(Prof Dr Umar Shihab)はイスラム法学の専門家で国会議員。
・９歳から12歳までマランの寄宿学校に学び、午前中はイスラム学校、夕方は中学校に通った。NU学校の伝統とアラビア語を修得した。その後、エジプトに留学。アルアザル大学入学に際しては、学科試験は免除され語学試験で合格している。
・70年代に初めて渡米した時は、南イリノイ大学の博士課程で学ぶことを希望していたが、同大学はベトナム戦争反対運動の激化で閉鎖中だった。そのため、留学の夢を断念し一旦は帰国。
・90年代、テンプル大学在職中にレバノン出身のコーラン解釈学の権威、モハマッド・アヨウブ教授の影響を受けた。ハーバード大学大学院で研究できるよう計らってくれたのも同教授である。
・PKBの中ジャワ州選挙区の比例リストの第１位として国会議員に当選。
・現在までにジャカルタに家を７軒所有。その内、南ジャカルタにある１軒(東カリバタ通り4B)はPKBの事務所として使用されている。パソ通り22の家からは今年５月のワヒド、アミン、メガワティ３氏による「パソ・コミュニケ」が出された。アルウィ氏自身はパパンダヤン通りにある妻の実家に住んでいる。
・PKBを通じて宗教多元主義を啓蒙することを主張してきた。「多様性に富むインドネシアにとってこれは死活的で、NUの度量の大きいキアイ(教師)なら皆私の基本的な考えに同意してくれるはずだ」。
・米国宗教アカデミー(アトランタ)の国際関係委員会の４人の委員の一人で、同学会は世界から5,000人の宗教者や学者を集めた年次総会を開催している。

---

■**蔵相** Minister of Finance (Menteri Keuangan)
**バンバン・スディブヨ**
Bambang Sudibyo, Dr

アミン・ライスMPR議長の側近の一人で、同議長が率いる国民信託党(PAN、国会第５党)では経済委員会議長を務めてきた。イスラム系諸政党の連合「中軸陣営」の「発案者」とされる。30年に及ぶ職歴の大半は教職にあり、入閣の直前まで(アミン議長も講師をしたことがある)ガジャマダ大学の経営学課程ディレクターを務めていた。従って、ジャカルタの経済界では比較的無名の存在で、「知識は優れているが、実務経験に限界があり、やや心配」(政治学者のアファン・ガファール氏)など閣僚としての手腕を疑問視する声も多い。ただ、故郷の中ジャワ州や学術界では、政府の政策に対しても「辛辣な」批判や解説をする学者として、広範な尊敬を得てきた。
　経済理論の根底には、ガジャマダ大学の学者に伝統的な貧困撲滅や零細企業の救済を重視する「公正な経済」の思想があるといわれる。ジョクジャカルタを拠点にするシンクタンク「戦略・政策研究センター」の理事でもあり、イスラム団体・ムハマディアの執行委員として敬虔なイスラム教徒としても知られる。

**▼データ**
【現職】大蔵大臣
【政党】国民信託党(PAN)：経済委員会議長
【年齢】47歳(1952年10月８日生まれ)
【生地】中ジャワ州トゥマングン
【学歴】
　1977：ガジャマダ大学経済学部卒
　1980：米ノース・カロライナ大学で経営学修士号(MBA)取得
　1985：米ケンタッキー大学で博士号取得
【経歴】ガジャマダ大学講師
　1998：[８月] PAN結成に伴い同党経済委員会議長
　1999：[10月29日] 蔵相
【家族】レトゥノ(Retno Sunarminingsih)夫人(薬学博士)との間に２男
【横顔】
・アミン・ライスPAN党首がワヒド政権組閣の際に蔵相候補として第一に推薦したのは、同氏ではなく、第７次スハルト政権で蔵相に就任したことのあるファド・バワジール氏だったとされる。

---

■**鉱業・エネルギー相** Minister of Mines and Energy (Menteri Pertambangan dan Energi)
**スシロ・バンバン・ユドヨノ(中将)**
Susilo Bambang Yudhoyono, Letjen

ワヒド政権入り前は、98年に断行された一連の国軍機構改革で「改名」された国軍領域担当参謀長(旧・社会政治担当参謀長)という要職にあり、ウィラント大将の後任として国軍司令官への就任が噂されてきた。それ故、経済関連閣僚としての入閣は地元マスコミでも意外感をもって受け止められており、同中将にとっても国軍の指揮系統から離れる不本意な「出向」人事(同氏の側近には、将来国軍司令部に戻ることができるという条件があるならば、本人は「閣僚としての経験を積むことも悪くない」と思っているとの意見もある)。短期も含めると海外留学は８回、海外でのセミナーの参加なども数多く、そうした国軍界きっての「知識人」としての能力をワヒド大統領はこの国家戦略上も重要なポストで活用したかったと見てよい。
鉱業・エネルギー省は資源国であるインドネシアの石油、天然ガス、鉱物資源の採掘を管掌分野に持ち、国家の歳入の大きな部分を担っている。経済危機の克服を最重要課題にするワヒド大統領が、同省のトップに改革派軍人を任命したのは、石油公社プルタミナ等を傘下にする同省にまつわる腐敗の根絶を目指す意味もあるのだろう。国軍内では「紅白派(パンチャシラ主義者)」軍人のリーダー的存在。スハルト元大統領による私兵化を快く思わない「国軍主流派」の「隠し玉」として、元大統領の「引き」なしで出世してきた。その点では元大統領の側近だったウィラント前国軍司令官(現・政治治安担当調整相)とは対照的なキャリアの持ち主。

**▼データ**
【現職】鉱業・エネルギー大臣
【年齢】50歳(1949年９月９日生まれ)
【生地】東ジャワ州パチタン
【学歴】
　1973：国軍士官学校卒(首席)
　　(米ミズーリ州)ウェブスター大学で経営学修士号取得
【経歴】陸軍戦略予備軍第17旅団長、第４軍管区(ディポヌゴロ師団)連隊長などを歴任
　1989：(バンドン)陸軍参謀学校教官
　1995：ジャヤ師団参謀長(第10軍管区／ジャカルタ)
　　ボスニア・ヘルツェゴビナ軍事監視団長
　1996：第２軍管区(南スマトラ／スリウィジャヤ師団)司令官
　1997：国軍社会・政治担当参謀長補
　1998：国軍社会・政治担当参謀長
　　[11月](国軍の改組に伴い)国軍領域担当参謀長
　1999：[10月29日] 鉱業・エネルギー相
【家族】クリスティアニ・ヘラワティ夫人との間に２子
【横顔】
・73年に国軍士官学校を首席で卒業、「開校以来の秀才」とまでいわれた。
・スハルト元大統領はかつて同氏に注目し、二女の婿に迎えようとしたが、同氏は大統領の親友サルウォ・エディ大将(旧陸軍降下部隊〔現在の陸軍特殊部隊〕司令官で9･30事件鎮圧に主要な役割を果たした)の娘と婚約したために断念した経緯がある(代わりに婿になったのが、士官学校の同期入学組で２番目の成績だったプラボウォ元中将)。

---

■**商工相** Minister of Industry and Trade (Menteri Perindustrian dan Perdagangan)
**ユスフ・カラ**
H.M. Yusuf Kalla, Drs

「ハジ・カラ・グループ」と呼ばれる企業群の総帥であるとともに、重機製造・販売の「ブカカ・グループ」の経営にも参画している南スラウェシ州の著名なプリブミ(「土地っ子」)実業家。80年代初期にスハルト政権が打ち出したプリブミ実業家支援策という追い風に乗って事業を拡大してきたゴルカル党員。ハビビ前大統領やタンリ・アベン前国営企業担当相が同州の出身であることもあり、同氏もハビビ支持者である。同氏の入閣は反政府的傾向が強まっている同州の住民を宥める意味合いが強そうだ。
　閣僚就任に当たって同氏は、深刻な失業問題への対策と購買力の強化が急務だとして、経済再建には「『実物部門』の再活性化が重要」と語っている。また、華人とプリブミの関係の修復は死活問題だとの認識も強調している。同氏によると、「華人が必要としているのは『保障』であり、プリブミが望んでいるのは『高収入』。双方の必要性を満たす道を見出すことが肝要である」。また、マクロ経済と教育にも特に強い関心を抱いている。

**▼データ**
【現職】商業・工業大臣
【政党】ゴルカル党
【年齢】57歳(1942年５月15日生まれ)
【生地】南スラウェシ州ワタンポネ

【学歴】
1967：(マカッサル)ハサヌディン大学経済学部卒
(仏)上級経済学校から経営学修士号取得
【経歴】ブカカ(Bukaka)グループ総帥(ブカカ・テクニク・ウタマ社長、ブカカ・インヴェスティンド社長)
南スラウェシ・インドネシア経済学士連盟(ISEI)総裁
インドネシア・ムスリム大学財団理事長
南スラウェシ州商工会議所会頭
1999：[10月29日] 商工相
【家族】ムフィダー夫人との間に5子

---

■**農業相** Minister of Agriculture (Menteri Pertanian)
**M.プラコサ**
Mohamad Prakosa, Dr Ir

ワヒド内閣ではコフィファー女性問題担当相(34)らとともに最年少の閣僚グループに属している(39)。入閣前は国連食糧農業機関(FAO)ジャカルタ事務所副代表を務めていた農業専門家で、本人は農相になるとは「夢にも思っていなかった」。最近のあるセミナーでは、農業分野の開発のために市場指向的な統合アグリビジネスの確立を訴えて注目されている。闘争民主党(PDI-P)党員。

**▼データ**
【現職】農業大臣
【政党】闘争民主党(PDI-P)：研究・開発委員
【年齢】39歳(1960年3月4日生まれ)
【生地】ジョクジャカルタ特別州
【学歴】米テネシー大学で修士号取得
米カリフォルニア大学(バークレー)で博士号取得
【経歴】FAO ジャカルタ事務所副代表
1999：[10月29日] 農相
【家族】スリ・アグスティニ夫人(Ir)との間に双子を含む3子(10代)

---

■**林業・農園相** Minister of Forestry and Plantations (Menteri Kehutanan dan Perkebunan)
**ヌル・マフムディ・イスマイル**
H. Nur Mahmudi Ismail, Dr Ir

急進イスラム主義政党(国会第7党)・正義党(PK)の共同創設者であり党首。同党創設以前はほとんど無名の政治家だった。同党が第5党・国民信託党(PAN、党首：アミン・ライス MPR 議長)と結成した院内会派「改革会派」はイスラム諸政党が連合した「中軸陣営」の中核として、ワヒド大統領擁立の推進力になった。
ハビビ氏(前大統領)がスハルト政権の研究・技術担当相だった時代は部下として同氏とは親しい関係にあったが、大統領選での同氏の再選には強く反対した。そのため、ハビビ支持者からは「裏切り者」との批判も出ている。

**▼データ**
【現職】林業・農園大臣
【政党】正義党(PK)：党首
【年齢】38歳(1961年11月11日生まれ)
【生地】中ジャワ州クディリ
【学歴】
1984：ボゴール農業大学(IPB)農業技術学科卒
1991：米テキサスA&M(大学)で修士号(食品科学・技術)取得
1994：同大学で博士号取得
【経歴】(帰国後)
農業工学の専門家、食品加工技術の研究者として科学技術応用庁(BPTT)に勤務
「国際イスラム教育及び奨学金計画フォーラム」(IFTAR、会長：ハビビ前大統領)マネージャー
1998：PK を創設し党首に就任
1999：[10月29日] 林業・農園相
【家族】ヌル・アジザ(Hj Nur Azizah Tamhid)夫人との間に3子
【横顔】
・酪農の専門家でもあり「ミルク博士」とのニックネームを持つ。大のサッカー・ファンでもある。
・イスラム道徳を強調し、イスラム教義上問題があるイベント等には一切参加しない。

---

■**運輸相** Minister of Transportation (Menteri Perhubungan)
**アグム・グムラル(中将)**
Agum Gumelar, Letjen

元来、実戦部隊の司令官としての能力を高く評価され、西カリマンタン州パラクでの反乱鎮圧、東ティモールでのスロジャ作戦、アチェ特別州やイリアンジャヤ州での治安回復作戦に参加、または指揮をとった経験を持つ。1996年からの第7軍管区(スラウェシ)司令官時代には学生デモの鎮圧に成功したことで、治安回復作戦のプロといわれた。しかし、98年にウィラント国軍司令官(当時)が国防研究所長に任命し、実戦部隊から「遠ざけられた」。ワヒド政権では国防相就任の呼び声も高かったが、結局運輸相に任命された。同中将はこの人事に不満を表明しているようだ。
93年にメガワティ氏(現副大統領)が旧・民主党(PDI)総裁に選出されるに当たって重要な役割を担ったが、その時代からのメガワティ・シンパである。敬虔なイスラム教徒として知られるが、国軍では「緑派(イスラム主義者)」ではなく、バンバン・ユドヨノ中将(鉱業・エネルギー相)らとともに「紅白派(世俗主義者)」に属している。

**▼データ**
【現職】運輸大臣
【年齢】53歳(1945年12月17日生まれ)
【生地】西ジャワ州タシクマラヤ
【学歴】
1968：陸軍士官学校(AMN)卒
【経歴】治安回復作戦本部情報担当部隊勤務
陸軍特殊部隊(Kopassus)司令官情報担当補佐官
第3軍管区(西ジャワ/シリワンギ師団)043連隊長
BAIS A 局長
1993：Kopassus 司令官
第1軍管区(ブキット・バリサン師団)参謀長
国軍司令部社会・政治担当参謀長補
1996：第7軍管区(スラウェシ/ウィラブアナ師団)司令官
1998：国防研究所長
1999：[10月29日] 運輸相
【家族】1974年、アフマド・タヘル退役中将(元観光・郵政・通信相)の娘、リンダ(Linda Achmad Tahir)嬢と結婚。リンダ夫人は97年から国会議員を経験している。子供は2人。
【横顔】
・流暢な中国語を話す。熱心なサッカー・ファンでインドネシア・サッカー協会(PSSI)会長。

---

■**海洋開発相** Minister of Maritime Exploration (Menteri Eksplorasi Laut)
**サルウォノ・クスマアトマジャ**
Sarwono Kusumaatmaja, Ir

海洋資源開発を担当するためにワヒド政権で新設されたポストで、その初代大臣に就任。大統領は「インドネシアの資源の4分の3は海洋にあり、これを開発したい」とこのユニークなポストの役割を語っている。同氏は海洋法に造詣が深いモフタル・クスマアトマジャ元外相の実弟であり、自らもスキューバダイビングを趣味にするなど海への愛着が深く、適任といえるだろう。
バンドン工科大学学生会会長を務めるなど、青年時代は学生運動に活躍し、旧・ゴルカル党員として中央政界入りした。1983年から同党幹事長。スハルト政権で行政改革担当国務相、環境担当国務相に就任したが、同政権の末期には率直なスハルト大統領批判を展開したため疎んじられた。形式ばらず、開放的で率直に話すのが好きな庶民派。環境担当相時代には部下に絶大な人気があった。

**▼データ**
【現職】海洋開発大臣
【年齢】56歳(1943年7月24日生まれ)
【生地】ジャカルタ
【学歴】(英国)中学校で学ぶ(卒業せず)
1963：ジャカルタ、バンドンの高校で学ぶ
1974：バンドン工科大学土木工学部卒
【経歴】
1967：バンドン工科大学学生会会長
1968：週刊誌「インドネシア学生」編集長(－70)
1971：国会議員
1977：国会ゴルカル会派書記(－82)
1983：(旧)ゴルカル幹事長
1987：国民協議会(MPR)ゴルカル会派副会長
1988：行政改革担当国務相(スハルト第5次内閣)
1993：環境担当国務相(スハルト第6次内閣、－98)
1999：[10月29日] 海洋開発相
【趣味】テニス、読書、スキューバダイビング
【家族】ニニ(・マラミス)夫人は駐ソ連大使を務めたマラミス氏の娘。子供は4人
【横顔】
・父親は薬剤師の助手をしていた。3人兄弟の2番目。長兄はモフタル・クスマアトマジャ元外相。

■**研究・技術担当国務相** State Minister for Research and Technology (Menteri Negara Riset dan Teknologi)

**A.S.ヒカム**

Muhammad Athoillah Sohibul Hikam, Dr

入閣前は国家科学院(LIPI)の経済研究開発センター(Puslitbang)上級研究員で、鋭いが平易な語り口の社会・政治評論家として知られた。研究者の多くが特定の党派に与せず、思想的な中立を標榜する中で、同氏の場合は以前からメガワティ氏(現副大統領)の闘争民主党(PDI-P)を中心とする改革派野党(当時)への支持をオープンに表明してきた。10月の大統領選の直前には他の LIPI 研究者とともにハビビ前大統領の再選を拒否する運動を展開。

故郷の西ジャワ州はナフダトゥール・ウラマ(NU、議長:ワヒド大統領)の支持基盤でもあり、ワヒド大統領のこれまでの治的な動きにも理解を示してきた。1996年にメガワティ氏が旧・民主党(PDI)から追放された後、ワヒド氏がメガワティ氏とスハルト家を「天秤にかける」かのような態度をとったことも著作の中でその真意を解説している。

ワヒド政権には教育相としての入閣が予想されていたにもかかわらず、大統領がいわば「畑違い」の科学分野の担当をこの政治学者に任せたことをいぶかる声も一部にはある。

**▼データ**

【現職】研究・技術担当国務大臣
【年齢】41歳(1958年4月26日生まれ)
【生地】東ジャワ州トゥバン
【学歴】
1981:ガジャマダ大学文学部卒(アラビア文学専攻)
1987:米ハワイ大学で修士号(マスコミ学)取得
1994:同大学で修士号(政治学)取得
1995:同大学で博士号(政治学)取得
【経歴】国家科学院(LIPI)経済研究開発センター(Puslitbang)上級研究員
1999:[10月29日] 研究・技術担当国務相
【活動】アジア研究協会(ASS)会員
インドネシア政治学協会(AIPI)会員
ジョクジャカルタ科学アカデミー会員
【家族】西ジャワ州タンゲランにある中流の住宅団地に居住。プジ(Pudji Winarni)夫人との間に1子
【横顔】
・学術論文に「国家、草の根政治と市民社会(1989-94年):インドネシアの新秩序時代における社会運動の研究」などがある。

---

■**観光・芸術担当国務相** State Minister for Tourism and Arts (Menteri Negara Pariwisata dan Kesenian)

**ヒダヤット・ジャエラニ**

H. Hidayat Jaelani, Drs

ワヒド大統領の古くからの友人の一人。その経歴の多くは観光・郵便・通信省(当時)傘下の郵便公社 PT Pos に勤務してきたキャリア官僚。入閣前は同公社理事。

▼データ

【現職】観光・芸術担当国務大臣
【年齢】62歳(1937年6月16日生まれ)
【生地】西ジャワ州バンドン
【学歴】(バンドン)パジャジャラン大学経済学部卒(会計学専攻)
【経歴】郵便公社 PT Pos 勤務
1994:PT Pos 財政局長
1999:PT Pos 理事
[10月29日] 観光・芸術担当国務相
【家族】子供:5人

---

■**投資・国営企業改革担当国務相** State Minister for Investment and State Enterprises Development (Meteri Negara Penanaman Modal dan Pembinaan BUMN)

**ラクサマナ・スカルディ**

Laksamana Sukardi, Ir

現職はハビビ前政権では投資担当相と国営企業改革担当相の2ポストに分かれていたもので、国務相では最有力ポストのひとつといえる。新政権での入閣が当然視されていた逸材で、本人は蔵相か中銀総裁のポストを希望していたようだ。しかし、就任早々、国営企業分野での前任者であるタンリ・アベン前国営企業改革担当相による国営企業合併計画の破棄を示唆するなど意欲は満々。

Citibank や(華人財閥のモフタル・リアディ氏が経営する)リッポー銀行の役員を歴任した金融の専門家で、93年にそうした地位を投げうってメガワティ総裁(当時)率いる野党の旧・民主党(PDI)に参加した時は政界通をも驚かせた。インドネシアは「(スハルト)大統領退陣」後の準備をする必要があると感じたのが政界入りの動機だった。その後、ビジネスとしては銀行及び金融問題を扱う「改革コンサルタント研究所」を主宰。

98年の闘争民主党(PDI-P)結成後は同党の「金庫番」として、経済学者のクウィック副党首(現経済・財政・産業担当調整相)、法学者のディミヤティ副党首らとともに同党の経済政策の立案に参画してきた。ただ、マクロ経済に関しては、同氏は穏健派のクウィック調整相よりはラジカルな改革論者とされる。行動力は抜群で一般市民の間での人気も高いが、スハルト旧政権下で堂々と「ポスト・スハルト」問題を論じるなど言動には歯に衣着せぬ一面もある。

**▼データ**

【現職】投資・国営企業改革担当国務大臣
【政党】闘争民主党(PDI-P):財務委員長
【年齢】43歳(1956年10月1日生まれ)
【生地】ジャカルタ
【学歴】
1979:バンドン工科大学(ITB)技術学部卒
【経歴】技術コンサルタント会社勤務
1981:Citibank、Bank Umum Asia、Lippo Bank の要職を歴任
1988:リッポー銀行(Lippo Bank)代表取締役(-93)
1992:国民協議会(MPR)議員(インドネシア民主党〔PDI〕会派)(-97)
1993:リッポー銀行退社
PDI に参加
PDI(96年以降はメガワティ派)財務委員長
1998:[10月10日] PDI メガワティ派党大会で財務委員長に再任
1999:[2月14日]新党・闘争民主党(PDI-P)発足で財務委員長
1999:[10月29日] 投資・国営企業改革担当国務相
【家族】レシー(・アネクサナドラ・ウルル)夫人との間に娘3人
【横顔】
・7人兄弟の2番目。父親はアンタラ通信の元記者で、現在は年金生活に入っているガンディ・スカルディ氏。祖父のディディ・スカルディ氏も著名なジャーナリストだった。
・1988年、Bank Umum Asia と Lippo Bank の合併に尽力し、合併後の新設・リッポー銀行(Lippo Bank)の代表取締役に就任した。92年、Banker of the Year(Swa 誌による)に選ばれている。

---

■**公共事業担当国務相** State Minister for Public Works (Menteri Negara Pekerjaan Umum)

**ラフィク・ブディロ・スチプト**

Rafik Boediro Soetjipto, Dr Ir

入閣前は鉱業・エネルギー省鉱業総局長の要職にあったテクノクラート。英語、フランス語、オランダ語に堪能。

**▼データ**

【現職】公共事業担当国務大臣
【年齢】50歳(1949年8月20日生まれ)
【生地】中ジャワ州カランガニャル
【学歴】バンドン工科大学(ITB)鉱山学部卒
(ベルギー・ルヴェン)カトリック大学で博士号(冶金学)取得
【経歴】鉱業・エネルギー省鉱業総局長
1999:[10月29日] 公共事業担当国務相
【家族】子供:1人

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)

(訂正とお詫び)前号(1999年11月15日号)の本欄の「ワヒド国民統一内閣」のリストで、(アル・ヒラル・ハムディ)移住・人口相を[各省閣僚]の項に入れてありますが、同ポストは[国務相]で移住・人口担当国務相が正しい職名です。従って、(正副大統領を除く)ワヒド内閣は調整相3人、各省閣僚16人、国務相13人、閣僚待遇職3人の計35人で構成されています。訂正しお詫びいたします。